

どんなに遠くたって、私たちはつながっている！

所属	三重県桑名市立光陵中学校	実践者	松田 真紀
対象	中学3年生×5クラス	時間数	＜50分×6＞ 授業×5クラス 30時間
場所	音楽室、各教室	実践教科	総合的な学習の時間・社会科
ねらい	① 途上国の現状を通して、価値観の違いや、多面的なものの考え方に気付く。 ② エチオピアの課題とその原因を考え、日本や自分とのつながり気付き、解決方法を考える。 ③ 途上国で働く日本人の活動を知り、自分の生き方を考える。		
実践内容	回	プログラム	備考
	1	◆エチオピアってどんな国？ ・エチオピアに関心を持ち、日本と比較しながらイメージを広げる。 ・クラス対抗エチオピアクイズを学年集会で実施。（全生徒参加型）	撮影した写真 パワーポイント スケッチブック
	2	◆日本とエチオピアを比較し、多面的にとらえよう ① 幸せって何なん？豊かかって何なん？ ・「幸せな時」を考えて付箋に書き出す。「幸せである」「幸せではない」「どちらとも言えない」に仕分けし、なぜそう考えたのか説明する。 ② 写真を物語ろう！ ・日本の実態（水・電気・食料・学校）について知り、情報を共有する。 ・エチオピアの写真から、「幸せではない」「幸せだ」と考えられるものを選択して、想像した内容を物語る。	☆KJ法 ☆フトランゲージ インターネットからのデータ 資料 撮影した写真
	3	◆エチオピアの課題を知り、原因を考えよう ① 生きるために必要なものって何？ ・書き出したものを、大事な順に10位までナンバリングし、グループで6つ選択してランキングする。 ② このままだと、どうなるだろう？ ・必要なものが十分でないエチオピアを想像して記入し、共有する。 A) 学校に行けない B) 水が出ない C) 電力が不足している ③ なぜ、こんな状況になっているのだろうか？ ・そもそもなぜ、このような問題が生まれたのか考える。	☆リストアップ ☆ランキング ☆派生図 ☆リストアップ
	4	◆エチオピアの課題を解決する方法を考えよう ① 「貧困の輪」ワークショップ！ ・貧困カードを円形に並べ、悪循環を断ち切るアイデアを書き込み、ユニセフカードを付け足す。 ② ファーストステップ7ヶ条を作ろう。 ・「日本にできること」「自分にできること」を考える。	☆循環図 貧困カード エセカード ☆リストアップ
	5-6	◆青年海外協力隊から生き方を学ぼう JICA「クロスロード」視聴	DVD プロジェクター
成果	クイズに全員が解答する場面を導入にしたことから、未知の国であるエチオピアに生徒たちの興味関心を引き出すことが出来た。また、学年部の若い担任団の協力を得て、全クラスで同じ授業ができたことも、生徒にとって効果的であり、様々な手法を学ぶ教師集団のスキルアップの良い機会となった。外国籍の生徒が共感しながら、母国と照らし合わせて学習する場面も印象的であった。		
課題	途上国の現状を知り、想像したり考えたりしてはみるものの、自分の生活とのつながりを強く意識して課題解決方法を深く考えるまでには至らなかった。また、知り得た情報を伝えたい気持ちが先行し、資料や写真が盛り沢山で、もう少し精選する必要があった。授業数が多く副担任であったこと、受験を控える三年生担当であったこともあり、時間の調整が難しく十分教材研究できなかったことが残念だった。		
備考	日常的に4人班のグループ学習をすべての教科で取り入れているため、動きはスムーズで、学年会議で検討した指導案を使い、すべての担任が生徒と共に学べる授業になった。		

[授業実践の詳細]

1 時限目「エチオピアってどんな国？」

この時限のねらい

- ・全員もれなく参加する。
- ・エチオピアの文化、伝統、生活を肯定的に受け入れる。
- ・イメージや偏見を払拭する。
- ・日本との同一性や違いを楽しむ。

エチオピアって どんな国??



1 子どもの活動の流れ

- ① クラス対抗エチオピアクイズ
 - ・エチオピアの場所、国旗、人口、民族、通貨、言語、気候、食べ物など、あらゆるジャンルのクイズに、選択あるいは○×で解答する。
 - ・クラスの全員が出席番号1番から38番まで前から順番に解答し、選んだ番号や○×のページをめくってスケッチブックを頭上に挙げる。
 - ・正解・不正解を担当団がチェックし、総合得点を競う。

エチオピアの国旗は、どれなん？



2 子どもの活動の成果・反応

- ◇ 1年生地理で学習したアフリカは、生徒達の記憶にはほとんどなく、事前アンケートでは次のようなイメージを持っていたことがわかった。

①ぞう ②動物 ③暑い ④ジャングル ⑤砂漠 ⑥自然 ⑦野生 ⑧黒人 ⑨発展途上
⑩チョコレート

教科書に出てくるアフリカ州はページ数が少なく、一部の国しか扱っていないために誤解や偏見を持ったままの生徒も数多くいる。発展途上国でプラスのイメージは湧きにくく、教師にとっても情報量の限られた中で授業を展開する領域となっている。

- ◇ そんな現状の中、多くの写真を見て、学年全体で解答しクラスで競い合うこと自体、初めての試みであった。誰もが正解不正解にこだわらず、一人ひとりに解答権が与えられたこの企画を、前向きに楽しんでいた。また、教え合ったり迷ったり、時には勝負に出たり、クラスの仲間を応援したりする様々な姿が見られた。

以下の項目をはじめ、多種多様なジャンルから出題し、多様性を驚きと共に、楽しく肯定的に受け入れられるよう工夫した。

国旗 紙幣 自然 町並み 教会 住居 トイレ 井戸 食事
髪編み込み コーヒー豆 サッカーゴール ロールポンプ
など

- ◇ 今までの思いこみや偏見がくつがえるような問題もあれば、日本の常識では思いつかないような解答も取り混ぜることで、生徒達に良い意味でのカルチャーショックを与えることができた。
- ◇ 動画を上手くクイズに利用できなかったことが悔やまれる。



3 使用した教材

- <教材1> 作成したパワーポイントスライド エチオピアクイズ
- <教材2> 解答番号を記入したスケッチブック 5冊、5クラスの名簿

2 時限目「日本とエチオピアを比較し、多面的にとらえよう」

この時限のねらい

- ・本当の幸せや豊かさとは一体何かを考える機会にする。
- ・価値観は多様であり、自分の考えと他者は違うのだと知る。
- ・日本の贅沢さが、エチオピアの貧困につながっていることに気付く。

1 子どもの活動の流れ

- ① 幸せって何なん？豊かさって何なん？【KJ法】
 - ・「幸せな時」を考えて、付箋に書き出す。
 - ・「幸せである」「幸せではない」「どちらも言えない」に仕分けし、なぜそう思うのか説明する。
- ② 写真を語ろう！【フォトランゲージ】
 - ・日本の状況を示す資料を見る。(水・電力・食料・学校)
 - ・席を移動して、他グループと情報を交流、共有する。

部活動 塾での勉強 授業風景 学校給食 集団整理
給食の残飯 食料廃棄率 摂取カロリー バイキング料理
水資源消費量 ウォッシュレット プールの授業 お風呂
スマホの普及 電力消費量 ゲームセンター
ライブ照明 コンビニエンスストア

- ・エチオピアの写真 10 枚を見て、イメージを膨らませる。
 - 1 回目:「気になる写真」を 2 枚選んで、物語る。
 - 2 回目:「幸せとはいえない写真」を 1 枚選んで、物語る。
 - 3 回目:「幸せな写真」を 1 枚選んで、物語る。
- ・1~3 回目は、写真を他グループと交換する。

ぼろぼろに破れた服や靴 環境の整っていない教室
水くみの子ども 靴磨きの少年 薪を拾う少女
子どもたちの笑顔 コーヒーセレモニー 路上のロバ
料理する女性 学校の子供たち 町並み トイレ
物売り ゴミ置き場 教材教具 陸上選手 など

2 子どもの活動の成果・反応

- ◇ 幸せだと感じる時をたくさん書き出してから、グループでKJ法を使って付箋を貼り分ける作業は意見がぶつかりとても楽しそうであった。自分が幸せだと感じることも他者にとっては苦痛であることや、自分がたいして幸せを感じないことについてグループの誰かがこだわっていることに気付き、仲間の新たな一面を発見する場面になった。
- ◇ 日本を顕著に示す様々な資料を見て、水や電力の大量消費や



食料の大量廃棄の実態をつかみ、学校や日常生活がいかに贅沢であるか気付くことができた。自分のグループに配布されたプリントから知り得た情報を、他のグループに伝える難しさはあったものの、日本が資源を無駄遣いしすぎなのではないかという見解については共有することができた。また、塾や、スマホの普及、コンビニの 24 時間営業など、便利なサービスと引き替えに多くの問題も抱えていることに気付き、「本当の幸せ」「本当の豊かさ」とは何か自分の考えを持ち、仲間と交流することができた。



◇ エチオピアで撮影した多くの写真は、生徒も関心が高かった。4人班なので、各グループ 10 枚ずつ用意し「気になる写真」を 2 枚選んで、1 人 1 分程度、状況を想像しながら物語る様子は正解がないゆえに、誰もが楽しんで参加できた。写真を隣のグループと交換し、「幸せでない写真」を選ぶのには 水を汲む子どもの様子や、環境整備されていない学校、ボロボロの服や靴の写真を選ぶ生徒が多く見られ、「今まで当たり前だと思っていた毎日に感謝しなきゃ」という声も聞かれた。3 回目の「幸せな写真」は、子ども達の笑顔や、動物と共存する生活スタイル、豊かな自然などを選び、貧しくとも生き生きとしている様子を物語っていた。多様性を多面的に受け止めて語り合う活動に、もっと時間があればよかったなという反省がある。また、膨大な写真から教材を選択することの難しさに直面し、厳選して枚数を減らした方が効果的だったかもしれないと思う。



3 使用した教材

- <教材1> 模造紙 9 枚・付箋 9 グループ分
- <教材2> 日本の状況を示す資料(インターネットより)9 セット
- <資料3> 2016 年度教師海外研修で撮影した写真 10 枚×9 セット

3 時限目「エチオピアの課題を知り、原因を考えよう」

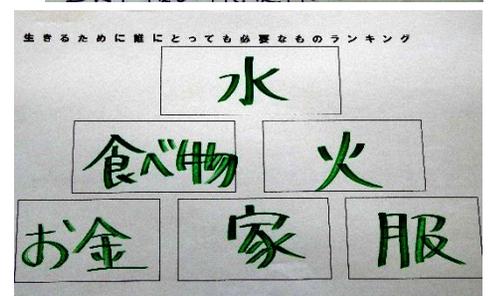
この時限のねらい

- ・満たされている生活の中で、最低限必要なものは何か振り返る。
- ・エチオピアの未来を想像し、様々な課題が関連していることに気付く。
- ・発展途上国の貧困問題の原因を考える。

食料、きれいな水、家、個人的空間、知識、言葉、衣服、お風呂、お洗濯、お財布、身体、心、音楽や本、個人的に楽しむもの、友達、家族、学力、感謝、感情、笑うこと、泣くこと、金、考えること、靴、紙、ペン、身を守るための権利、自由、秩序、決まり、コミュニケーション、空、優しい、熱意、信じること、人権

1 子どもの活動の流れ

- ① 生きるために必要なものって何?【リストアップ&ランキング】
 - ・生きるために必要だと思うものを各自で書き出す。
 - ・大事なものを順番に 10 位までナンバリングする。



・生きるために誰にとっても必要不可欠なものをグループで相談して6つ選択し、ピラミッドランキングする。

② このままだと、どうなるだろう？【派生図】

・エチオピアには生きるために必要なものが十分でないことを伝え、この状況が継続するとどんなことが起こってくるか想像する。

A: 学校に行けない B: 水が出ない C: 電力が不足している

- ・ABCについて、3グループずつ担当して派生図を書く。
- ・同じテーマを扱うグループは用紙を縦列に回覧し、なるほどと思ったら☆マークを付ける。
- ・次に、自分の担当していない、あと2つの課題を横列に回覧し考えをつけたす。

③ なぜ、こんな状況になっているのだろうか？【リストアップ】

・エチオピアの3つの課題は、どこから発生しているのか原因を考えて書き出す。



B 地球温暖化 ← ほかの国から温室効果ガスが排出されているから
 A お金がない → 家賃が安いから
 C 発電所がない → 発電量が少ない
 B 水道が整備されていない → 技術がない
 A, B, C → 他国からの支援がまだ足りない

☆ お金がないから
 ☆ 設備がないから
 ☆ 学校がないから
 ☆ 住むのに精一杯だから
 ☆ 先生が怖いから
 ☆ 働かなくて子供が多いから
 ☆ 教科書がないから
 ☆ 教育を指導する人がいないから
 ☆ 教育が先にいざし事がある

2 子どもの活動の成果・反応

- ◇ 社会科の公民の授業で「生存権」を学習したことを思い出し、ピラミッドランキングはスムーズに進んだ。一番大事だと多くの生徒が考えたのは「お金」であり、すべてのものは、お金があれば解決できると思うようだった。お金以外に6つにしぼると、大体は水、食料、睡眠、衣服、住居が選ばれる傾向が強い。しかし、お金では買えないものに価値を見だし「家族」を選択するグループもあった。
- ◇ エチオピアが抱える現状を放置しておく、どんな未来につながるのか考えた。どんどんマイナス方向に派生図が進むかと思われたが、意外にもABCすべてのグループにおいて、その状況を打破するために行動を起こす人がきつといると、プラス方向への道を考え出す生徒もいて、☆マークに喜んでいった。
- ◇ 「学校に行けない」「水が出ない」「電力の不足」の派生図を共有する中で、「3つとも、どこかでつながってるね」と関連性があることにほとんどの生徒が気付いた上で、原因を考える展開となった。

3 使用した教材

- <教材1> ピラミッドランキングプリント
- <教材2> 模造紙半分9枚 A3用紙9枚

4 時限目「エチオピアの課題を解決する方法を考えよう」

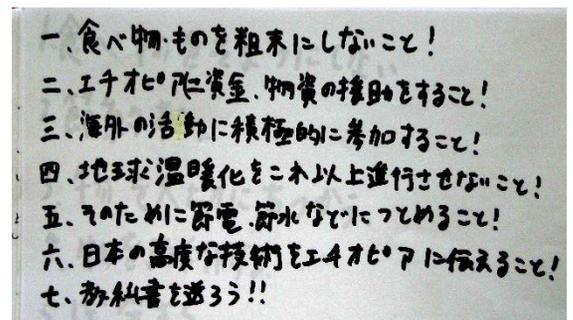
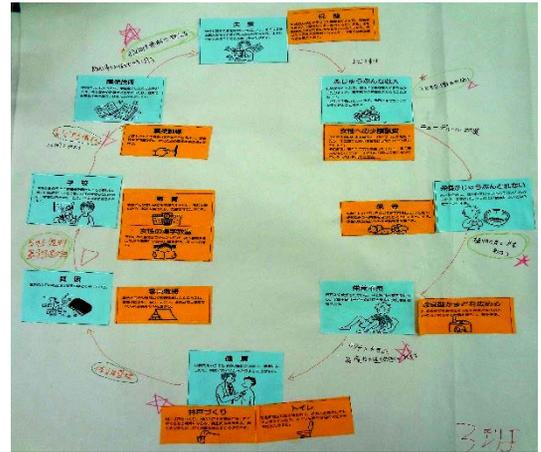
この時限のねらい

- ・様々な問題の循環図を作成し、構造を発見する。
- ・一度貧困に陥ったら負のスパイラルから抜け出しにくいことに気付く。
- ・悪循環を断ち切る方法を知り、遠く離れた私たちにも可能な援助方法を考える。

1 子どもの活動の流れ

- ① 「貧困の輪」ワークショップ
 - ・8枚の貧困カードを原因・結果で繋ぎながら右回りに円形に並べる。

- ・原因から結果へ→を書き、手分けしてのりで貼る。
 - ・悪循環を断ち切るために何ができるか、援助方法を書き込む。
 - ・グループの中で1人、他のグループを見に行きアイデアをもらう。制限時間を過ぎたら、戻って付け足す。
 - ・「持続可能であるもの」を赤色で囲む。
 - ・3つのグループで用紙を回覧して、良いアイデアには☆マークを付ける。
 - ・手元にもどった用紙に、ユニセフの援助カードを貼る。
- ② ファーストステップ7ヶ条を作ろう！【リストアップ】
- ・エチオピアの課題を解決するために、日本にできること、自分にできることを考えて書き出す。
 - ・日常的に意識すること、改善できること、工夫できることを相談して、自分のたちの7ヶ条をグループで決める。



2 子どもの活動の成果・反応

- ◇ 貧困カードはすぐに円形に貼ることができ、負のスパイラル構造も理解できたが、悪循環を断ち切るアイデアを出すのはとても難しそうだった。ユニセフカードを提案しなければ行き詰まっていた可能性は高い。
- ◇ 「持続可能な支援」を考えることはできても、中学生にできることは限られており、遠くのエチオピアが自分たちの生活とつながっていることをイメージするのは困難だと感じた。募金や寄付だけでなく、物を大事にする、食べ物を残さない学ぶこと、知ること、伝えることが大事だという意見も出ていた。

3 使用した教材

- <教材1> 模造紙半分9枚 A3用紙9枚
- <教材2> 貧困カード8枚×9グループ ユニセフカード10枚×9グループ

5-6 時限目「青年海外協力隊から生き方を学ぼう」

この時限のねらい

- ・海外で活躍している青年海外協力隊の活動に興味関心を持つ。
- ・ボランティアとは何か考える。
- ・望ましい職業観や人生観に触れ、進路選択の幅を広げる。

1 子どもの活動の流れ

- ① 青年海外協力隊の活動について紹介
- ② DVD『クロスロード』を視聴する。

2 子どもの活動の成果・反応

- ◇ 体育館で、学年集会スタイルで2時限使って視聴した。
- ◇ 場所と時間割の関係上、別日に1時限ずつ視聴することになったが生徒たちには好評であった。



- ◇ 全授業の最後に DVD を視聴したことで、第 4 限目には、なかなか自分たちでは思いつかなかった「青年海外協力隊」という支援の道があることを知り、興味関心を抱く生徒の姿も見られた。また、外国にルーツを持つ生徒にとって、映像の中に出てくる街の懐かしい風景や、自分たちになじみのある言語に触れながら、仲間と一緒に学べる機会となり嬉しそうであった。

3 使用した教材

- <教材1> プロジェクター マイク
- <準備物> DVD『クロスロード』

■ 全体を通して

1 授業の様子

- ◇ 勤務校は、全学年が日常的にコの字型の席の配置であり、男女は市松模様に座っている。すべての教科において4人グループの参加型学習をしているため、生徒達はアクティビティや話し合い活動には前向きであった。エチオピアから帰国後、一緒に授業展開を考え、スキルアップしようと協力してくれた同僚に感謝したい。学年教師集団が共に学ぼうとする姿勢に、生徒の吸収力も高まり、学びも深いものとなったように思う。
- ◇ 現地に足を運んで本物に出逢うことの大切さや、多様な価値に触れることの楽しさが、授業を通して少しでも伝わり、生徒の心を揺さぶることができたのならとても嬉しい。生徒達が、広い世界へ目を向け、自分とのつながりを意識したり、世の中の動きに関心を持って生活したりするきっかけとなったのではないかと思う。近い将来、この授業を思い出し、青年海外協力隊や国境なき医師団を目指す生徒が出てくることを期待したい。